



## 2 九州電力環境顧問会での主なご意見

2005年5月17日(火)に「第5回 九州電力環境顧問会」を開催し、九州電力及び九電グループの環境問題への取り組みや「2005 九州電力環境アクションレポート」について、様々なご意見をいただきました。

主なご意見を紹介します。

ご意見の環境活動や環境アクションレポートへの反映については **P71 参照**

### 1 環境への取り組みについて

#### 環境経営

- 「環境アクションプラン」中の、「社会との協調」が引込み思案(自己完結的)である。21世紀半ばを見据える上で、これでは先進企業として不十分である。一般の方々を、お客さまであると同時に「パートナー」として、ともに環境問題に取り組んでいく必要がある。



浅野委員

#### 地震への対応

- (熊本に在るが)福岡の地震で原子力発電所がどうなっているかが気になった。九州に住む人全員が心配されたのではないかと。地震のときの対応等について説明することで、一般の方は安心するのではないかと。
- 最大の環境汚染はCO2ではなく原子力発電所トラブル時の環境負荷という見方もできる。関連情報をどんどん出していくべき。



丸本委員



中村委員

#### 原子力発電の推進

- 原子力発電によるCO2抑制効果やプルサーマル①の必要性について強調するのは分かるが、前提として電源ベストミックス①の考え方がある。各電源のメリットを踏まえた上で最適な組み合わせを考えるということなので、各電源の客観的なメリット・デメリットについて説明すべき。
- 一般の人々は、太陽光・風力発電に対する憧れのようなものがあるので、販売電力量に占める太陽光・風力発電の割合が低いことの理由や推進することの難しさを説明すべき。



奥委員



筒井委員

#### 地球温暖化問題

- 「公益事業の一翼を担っている」という視点に今一度立ち返り、企業の社会的な役割として、質の高い電気を供給するだけでなく、お客さまにピークカット等、電気の使い方について多少の無理を言うことも必要になってくると思う。
- 電気の供給量が増えると、必然的にCO2の排出量が増える。排出原単位①の高い電源からの電気については、売り控えるというようなことも考えなければならぬ。
- エコリーフ①の認証取得までしているのに、検針票に前年同月のCO2排出量も印字し、お客さまがどれくらいCO2を排出しているかをお知らせして欲しい。
- 社有林のCO2吸収についてはもっとPRすべき。

#### 環境教育

- 大分県内の社有林等は手入れが行き届いており、環境教育の場として有用。そこに生息する動植物(野鳥やミヤマキリシマなど)を説明した掲示板等を現地に設置して見てはどうか。
- 環境教育のリーダーシップを取って欲しい。例えば、学生を公募して、九州電力の施設で



福泉委員

研究をさせるような取り組みや、九州電力が主催して、じっくりと人を育てるような環境教育に取り組んでもいいのではないか。

#### 環境コミュニケーション

- エコ・マザーの取り組みは、非常にいい取り組みなので、自治体のプログラムと連携したり、自治体にシステムを提供したり、九州電力だけではなく、自治体、NPO①のポイントアップにもなるように取り組んで欲しい。

### 2 環境アクションレポートについて

#### 環境アクションレポート

- CO2排出原単位が悪化した理由を、原子力発電所の利用率①が低下したためと書いてあるが、ここで火力発電と原子力発電のCO2排出原単位を数字で出した方がより分かりやすい。
- また、なぜ原子力発電所の利用率が低下したのか記載すべき。
- 各電源の発電電力量など九州電力の全体的な現状と、3年後、5年後の計画に基づいて、CO2の問題が具体的にどのようになっていくかということに記載した方がより分かりやすい。
- マテリアルフロー図中の環境負荷の削減効果については、そのベースラインを記載すべき。
- 苦情及びそれに対する対応について、その詳細内容を記載すべき。
- エコ・マザークラブの活動については、今後の展開・連携を深めるためにももう少し詳細な活動内容を記載した方が良い。
- CD-ROM版のエコアクションについては、省エネラベリング制度等、購入時の視点についても記載した方が良い。
- 「私が考える省エネルギー」として、主婦、家族等の取り組み事例を紹介したらどうか。



沢田委員



鶴田委員



石塚委員



赤木委員

#### 環境アクションレポートダイジェスト版

- 環境アクションレポートをより多くの人に知っていただくためには、営業所等にパンフレットのような形で常備し、お客さまが手軽に見ることができるようになることも大切ではないかと。



大塚委員

九州電力環境顧問会委員	あかぎ せい 衛	著述業
	あさの なおひと 浅野 直人	福岡大学法学部 教授、中央環境審議会臨時委員
	いしづか なほみ 石塚奈穂美	生活ジャーナリスト
	おおつか まさひろ 大塚 政雄	環境省 環境カウンセラー(市民部門)
	おく ともみ 奥 真美	長崎大学環境科学部 助教授
	いわた けんたろう 沢田 孝雄	読売新聞西部本社 編集局次長
	ついで けんたろう 筒井 泰彦	エッセイスト
	ついで けんたろう 鶴田 暁	九州地域産業・リサイクル産業交流プラザ 副会長
	なかにか へいじ 中村 英隆	遠賀信用金庫 理事長
	ふくいきり たくし 福泉 亮	福岡県立修猷館高等学校 教諭
まるもと ぶんこ 丸本 文紀	株式会社県民百貨店 くまもと阪神 代表取締役社長	

(50音順、敬称略)

「環境報告書審査基準案」を参考として審査した重要な環境情報

記載内容に関する詳細な情報を「巻末CD-ROM」で紹介しているもの

用語集で解説している環境用語

#### 用語説明

詳細については用語集を参照ください。

#### プルサーマル

原子力発電所で使用された使用済燃料を再処理して取り出されたプルトニウムとウランとを酸化物の形で混合した燃料をMOX(Mixed Oxide: 混合酸化物)燃料といい、これを現在稼働している原子力発電所で利用することを指す。

#### 電源ベストミックス

各電源の供給安定性や経済性、環境影響などを総合的に勘案して、水力、火力、原子力、地熱といった電源について、バランスの取れた電源構成を図ること。

#### 排出原単位

1kWhの電気を発電または使用する際に排出されるCO2、NOx、SOxなどの量のこと。

#### エコリーフ

製品の製造から廃棄までの過程で環境に与える定量的環境負荷データをLCA(ライフサイクルアセスメント)手法により算出し第三者機関の認証を受けた上で公表するもの。

#### NPO法人

医療・福祉、環境、文化・芸術、スポーツ、街づくり、国際協力・交流、人権・平和、教育、助成などの、あらゆる分野における営利を目的としない民間の組織のこと。

#### ・利用率